



諏訪湖通信68号

令和6年2月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖における持続可能な漁業振興に係るワーキンググループが開催されました

漁獲量の減少が著しい諏訪湖において、諏訪湖創生ビジョンの目指す姿のひとつ「多種多様な生き物を育む湖」に位置付けられている漁業振興の課題整理と対応策を検討するワーキンググループが令和6年1月11日に開催されました。メンバーには漁業関係者や生態系の専門家も含まれており、様々な立場の方が「漁業振興」にフォーカスをあてたテーマで議論を行います。

今回の会議(第1部)では、まず諏訪湖に生息する在来魚、移殖魚の歴史的な話や近年の漁獲量の変遷など、議論にあたって必要な情報を再確認しました。

現状を認識したうえで、会議の中では「昔と今では諏訪湖の環境は変わっている。現在の魚種に限定せず現環境に適応する新たな魚種を選定することも必要」、「漁業関係者の担い手確保や漁業の活性化を促すため川魚を使った郷土料理の復活を目指す」、「サラリーマンでも兼業できるエビ漁のPR」など、持続可能な漁業振興にむけた意見が出されました。

また議論は主に漁獲量の変遷データに基づくものですが、湖内の水産資源量とリンクしているかは不明であるため、どのような魚がどれだけ生息しているかという湖内の現状把握の必要性についての声も聞かれました。



(ワーキンググループの様子)

第2部では、今年度はじめて予算化された「県民参加型予算※」を使った事業の現場見学を行いました。諏訪湖漁業協同組合の協力を得て湖上にある現場まで移動し、工作物(浮き漁しょう)を目の前に、事業概要の説明を聞くことができました。現場には、魚の産卵場所や隠れ家の創出のため、いかだ状の浮き漁しょう9基設置。また湖底には八塚漁を模した大石を投入し、エビなどの棲み処にも配慮しています。



(諏訪湖上に設置された浮き漁しょう)

本事業はあくまでも実証実験ということですが、この手法が魚介類の生息環境を修復する一助となり、かつての水生植物が豊かに茂り、多くの魚介類が生息した諏訪湖に近づく足がかりになることを期待しています。

※県民参加型予算とは

県予算の構築に当たり、県民の新たな発想や問題意識を取り入れるとともに、県政をより身近なものとしていただくため、事業提案及び事業選定のプロセスに県民が参加する仕組み。本事業は令和4年度に公募により提案・選定され、今年度予算化されたもの。

◎イベントのお知らせ

- ・3月6日 第11回 諏訪湖創生ビジョン推進会議 (場所: 下諏訪総合文化センター小ホール)
- ・3月14日 諏訪湖の浚渫(しゅんせつ)勉強会 (遊覧船に乗り、浚渫現場を見学します)

ヒシの大量繁殖対策に関する学習会、諏訪湖の水草対策ワーキンググループが開催されました

ヒシの繁殖面積は、隔年周期で増減を繰り返しながら減少してきましたが、平成30年度以降は微増が続いています。諏訪湖創生ビジョンでは、ヒシ除去の新たな仕組みづくりを検討し、今後5年間でヒシ除去量倍増を目指すこととしています。そこで、ヒシの除去手法や実施場所等の検討を行うため、令和6年1月22日に第1回ワーキンググループ(以下「WG」)を開催しました。また、WGでの検討に先立ち、ヒシの生態や特性を正しく理解するとともに、三方湖の事例について学ぶため、一般公開で学習会を開催し、東京大学大学院 農学生命科学研究科の吉田丈人教授(三方五湖自然再生協議会 副会長)にご講演いただきました。参加者からは「新たな知識を学ぶことができた」、「先進事例が参考になった」と大変好評で、その後のWGでも活発な議論が行われました。

①学習会の概要

- ・ヒシは一年生。種子の発芽は翌年。発芽部分から細菌が入り腐敗するため、ヒシの種子の寿命は長くても2年程度。
- ・同じ湖沼内でも栄養状態などで種子の形状が大きく変わる。日本でよく見られるのはヒシとオニヒシ。諏訪湖はヒシ。トウヒシは九州でよく見られる大型の種。
- ・ヒシの葉を食べるジュンサイハムシが洗濯物を汚す原因に。
- ・三方湖では流入河川の河口部は流れが強く、また、汽水が混ざるエリアは塩分が高いためヒシがほとんど繁殖しない。
- ・三方湖ではヒシの繁殖面積が年によって大きく変動するため、予算の確保や執行が困難になることがある。
- ・三方湖では当初大型の刈取船をレンタルしていたが、ワイヤー刈りを導入して経費を削減できた。ワイヤー刈りは茎が細い春にやるのが重要。
- ・三方湖では自然再生を地域やコミュニティの再生としても位置付け。



(吉田教授による講演の様子)

②WGの概要

- ・沖野会長から諏訪湖の概要についての講義、水大気環境課、諏訪建設事務所整備課、諏訪地域振興局環境課からこれまでの取組事例の紹介後、6つのグループに分かれて課題や解決策について議論(ワークショップ)。

【主な提案】

- ・ヒシ除去の目的を明確に水生植物全体を管理
- ・種子を落とさない。落ちた種子の分布を広げない
- ・観光税を活用したヒシの除去
- ・学習会で紹介のあった三方湖のゾーニングや春先の刈取を諏訪湖でも導入してはどうか、等 (WSの様子)



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901